

家 庭

1 家庭科の学習指導の改善

(1) 学習指導の改善の視点

専門教育としての家庭科は、従前の普通教育としての家庭科と同一教科とする扱いを改め、職業教育としての性格を明確にするとともに、専門教育としての内容に厳選されている。指導においては、①専門性の基礎的・基本的な知識や技術を確実に習得させるための学習指導、②専門的な学習への動機付け、卒業後の進路や職業について生徒の意識を高める学習指導、③少子高齢化や生活産業の高度化・サービス化等に対応した学習指導、④消費者教育や環境教育に関する学習指導、⑤学校家庭クラブ活動を充実させることが大切である。

(2) 学習指導の工夫改善

ア 個に応じた指導の充実を図る。

イ 実験・実習の充実を図る。

ウ 問題解決的な学習を重視した指導の充実を図る。

エ ホームプロジェクト、学校家庭クラブ活動の充実を図る。

オ 就業体験や産業現場の見学、社会人講師による講話等の機会の確保を図る。

カ コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段、教育機器等の活用を図る。

2 評価の工夫

(1) 評価の基本的な考え方（参照：普通教育「家庭」 P 65）

(2) 評価の方法（参照：普通教育「家庭」 P 65）

(3) 教科目標と評価の観点

目 標	家庭の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活産業の社会的な意義や役割を理解させるとともに、家庭の各分野に関する諸課題を主体的、合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。
-----	--

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
生活産業や家庭の各分野に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、創造的、実践的な態度を身に付けている。	生活産業や家庭の各分野に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	生活産業や家庭の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。	生活産業や家庭の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、生活産業の社会的な意義や役割を理解している。

3 学習指導案の作成

(1) 科目「生活産業基礎」

(2) 指導計画 「生活産業と職業」(45時間)

指導項目	指導内容	時間	指導上の留意点及び取扱い等
1 生活と生活産業	(1) 生活産業の種類と特徴	5	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住、保育・福祉等に関する生活産業の種類と特徴を取り上げる。 ・地域の生活産業の実態調査を行う。 ・衣や食、福祉等に関する専門家の講話を通して、生活産業の実態について具体的に理解させる。 ・進路希望調査や職業適性テストを活用する。
	(2) 専門家の講話	4	
	(3) 職業の適性	2	
2 就業体験	(1) オリエンテーション	2	<ul style="list-style-type: none"> ・学科の特色や生徒の実態等に応じて、生活産業の各分野から選択して扱う。 ・事前に、就業体験先の企業等と綿密な打合せを行う。 ・実習前の目標・課題、実習中の体験内容、実習後の感想・考察等を記入できる就業体験日誌を活用する。 ・実習先でのマナー、交通安全、就業体験中の安全等について指導を十分行う。 ・実習先への巡回指導を行い、生徒の活動の様子を把握する。 ・写真等を用い、就業体験の成果、課題をまとめ、就業体験集を作成させる。 ・受入先企業等からの出席を願いし、発表会を行う。 ・就業体験日誌の自己評価表、相互評価表を活用する。
	(2) 就業体験	12	
	(3) 就業体験のまとめ	3	
	(4) 就業体験の成果発表	5	
3 消費者ニーズに応えるための研究	(1) 体験した生活産業の課題と改善案	3	<ul style="list-style-type: none"> ・改善する課題ごとに、グループ編成を行う。 ・改善計画や実施計画を就業体験日誌に記入させる。 ・グループで商品開発やサービス等の改善(案)を考えさせる。 ・改善案の発表を行い、優秀な改善案を選ばせる(審査員や生徒の投票)。 ・優秀な改善案は受入先企業等に「高校生のアイディア」として提案する。
	(2) 改善案の実施	6	
	(3) 改善案の発表と提案	3	

(3) 単元 「就業体験」

ア ねらい

各自が興味のある衣、食、福祉等に関連する産業の就業体験を通して、生活産業に関する幅広い知識や生活関連産業に従事するために必要な資質を身に付ける。

イ 評価の観点

(ア) 関心・意欲・態度 生活関連産業に関心を持ち、従事する者として必要な資質を身に付けたか。

(イ) 思考・判断 場面に応じて適切に就業できたか。

(ウ) 技能・表現 就業規則に則り、適切に就業できたか。

(エ) 知識・理解 体験した生活産業について理解できたか。

ウ 指導案(22時間)

指導内容	学習活動	教材等	評価の観点			
			ア	イ	ウ	エ
1 オリエンテーション (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験の心構えや就業体験のマナーを理解する。 ・就業体験先の企業等に依頼文を書く。 ・自己のプロフィール(性格、特技、希望した動機等)をまとめ、企業等に送付する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験の事前指導プリント ・便せん、封筒 ・プロフィール記入用紙 	○		○	
2 就業体験(12時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験を通し、生活産業の実態を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験日誌 		○	○	
3 就業体験のまとめ (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験の感想等を日誌に書く。 ・写真等を使い、就業体験の成果、課題をまとめ、就業体験集を作る。 ・企業等へ札状や感想等を書き、送付する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験日誌 ・就業体験時の写真、就業体験日誌 ・便せん、封筒、感想文記入用紙 			○	○
4 就業体験の成果発表 (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験の成果を発表し、他者の発表を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験集 ・自己評価表、相互評価表 	○			○

エ 評価について

就業体験では、生徒の関心や意欲等の内面を理解する手段として自己評価を用いる。また、受入先の企業等から評価を受け、生徒を客観的に評価する資料にするとともに、学校として就業体験実施の評価に役立てることも大切である。

就業体験評価カード (企業用)				
生徒氏名	<input style="width: 100%;" type="text"/>			
*評価表(該当するものに○をつけてください。)				
・意欲をもって、いきいきと働きましたか。	A	B	C	D
・与えられた仕事を最後まで責任をもって成し遂げましたか。	A	B	C	D
・一緒に働く人達と協力できましたか。	A	B	C	D
・挨拶、言葉づかい、礼儀はきちんとできていましたか。	A	B	C	D
*就業体験に関して、お気付きの点がございましたらご記入ください。				
<input style="width: 100%; height: 100%;" type="text"/>				
*学校への要望がございましたらご記入ください。				
<input style="width: 100%; height: 100%;" type="text"/>				

4 質疑応答

問1 「生活産業基礎」や「課題研究」において、就業体験を実施する意義と指導上の留意点は何か。

就業体験は、生徒が実際的な知識や技能・技術に触れることによる学習意欲の喚起、主体的な職業選択能力や高い職業意識の育成、異世代とのコミュニケーション能力の向

上など、その意義は極めて大きいものであり、専門教育の家庭科では、服飾産業、レストランや食堂、百貨店(デパート)、老人福祉施設や保育所等での実習が考えられる。実施に当たっては、次のような点に留意する。

- ア 家庭に関する専門分野のより深い知識と技術を習得させるとともに、明確な目的意識をもたせる。
- イ 就業体験を通して、職業観、勤労観、責任感、成就感等を体得させる。
- ウ 綿密な就業体験の指導計画を作成し、事前指導や事後指導を十分に行う。
- エ 学校は、受入企業等と事前に打合せや意見交換等を行い、その趣旨やねらい等について理解を求める。
- オ 安全の確保や事故の防止等に十分配慮する。

問2 家庭の専門学科において、大学等との連携や学校外の学修の単位を自校の科目の履修とみなし、単位の習得を認めている例はあるか。

大学等と連携することは、施設設備の整った学習環境で、より専門的な学習を受けさせる機会であり、専門教育としての家庭科の充実につながるものである。単位認定に当たっては、各学校の判断により、その学修成果に対応する科目の一部又は全部の単位として認めることもでき、また、増加単位として認定することもできる。

O高等学校では、地元の福祉関係の短期大学と連携を行い、介護や福祉に関する内容を年間25時間について、科目「家庭経営」(2単位)に含めている。また、M高等学校では、地元の保育士を養成する短期大学において、芸術科や保健体育科の学校設定科目である「レクレーションクラフト」、「レクレーションミュージック」、「レクレーションスポーツ」を履修させ、自校の単位として認めている。M高校の実践例について、家庭科の「児童文化」に対応させると次の表のようになり、家庭科の実践において参考になるものである。

<表>

<p>1 連携機関 短期大学 (保育科)</p> <p>2 実施学年 第3学年</p> <p>3 学習の内容 美術に関する内容(レクレーションクラフト)、音楽に関する内容(レクレーションミュージック)、体育に関する内容 (レクレーションスポーツ)</p> <p>4 受講者数・認定単位 3科目計30名・2単位</p> <p>5 家庭科との関連</p> <p>科目「児童文化」(新学習指導要領)</p> <p>(1) 児童文化の意義</p> <p>(2) 子どもの遊びと発達</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 遊びと発達</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 遊びと道具</p> <p>(3) 子どもの表現活動と文化財</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 造形表現活動</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 言語表現活動</p> <p style="padding-left: 20px;">ウ 音楽・身体表現活動</p> <p>(4) 児童文化施設</p> <p>(5) 児童文化実習</p>	<p style="text-align: center;"><短期大学の科目との関連></p> <p>A 児童文化</p> <p>B 保育内容研究 (子どもの環境、生活・遊び、文化)</p> <p>C 図画工作 I・II、レクレーションクラフト演習</p> <p>D 音楽 I～III、レクレーションミュージック演習</p> <p>E 体育 I・II、レクレーションスポーツ演習</p> <p>F レクレーション総論・実技</p> <p>G 総合芸術 (ミュージカル)</p>
---	---